

# いしづち

愛媛労災病院広報紙第18巻第3号

（通巻第89号）

2019年7月5日発行

発行人：院長 宮内文久

## 理念

当院は働く人々のために、そして  
地域の人々のために信頼される  
医療を目指します

## 基本方針

1. インフォームドコンセントの実践
2. 安全かつ良質な医療の提供
3. 勤労者医療の推進

当院では、医の倫理と病院の理念に基づいた医療を積極的に  
推進していくため、患者さんの基本的な『権利と責務』を、  
以下のように宣言します。

### 【患者さんの権利】

- 1) 人としての尊厳を保ちながら、良質の医療を受ける権利
- 2) 十分な説明と情報提供を受け、自らの意思で治療法の  
決定やセカンドオピニオンを希望する権利
- 3) 個人に関するプライバシーを保護される権利

### 【患者さんの責務】

- 1) 疾病や医療を理解するよう努力する義務
- 2) 医療に積極的に取り組む義務
- 3) 快適な医療環境づくりに協力する義務

## ふれあい看護週間行事を開催しました！



5月12日は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日です。ICN（国際看護師協会）はこの日を「看護の日」と定めております。

当院では毎年看護週間行事として、各部署の紹介や各部門の活動を紹介します。パネル展示や、イベントを行っています。

今年は5月8日、看護相談や身体測定、昨年好評であった「芸乃虎や志」さんによる「ふれあい寄席」を開催しました。看護相談では、糖尿病や口のケア方法についての相談、防災については災害の備えや応急処置の方法等熱心に聞かれていました。身体測定では、特に、骨密度測定の参加者が125名と多く、骨粗鬆症についての関心の高さが伺えました。「ふれあい寄席」では、一般の方々とともに入院患者さんも参加し、笑いを交えながら、楽しいひと時を過ごしました。これらの行事を通して、多くの人と看護にふれあう機会となりました。

骨盤臓器脱手術の変遷 .....	2
栄養管理部の紹介 .....	3

北5階病棟の紹介 .....	3
新規採用医師の紹介 .....	4

## 骨盤臓器脱手術の変遷

泌尿器科 西村 謙 一

2018年7月より愛媛大学から応援医師として毎週金曜日外来をさせていただいています。専門は小児泌尿器、婦人泌尿器科です。この度、このような機会をいただいたので、最近の骨盤臓器脱手術についてご紹介させていただきます。

骨盤臓器脱とは、骨盤底臓器（尿道、膀胱、子宮、膣、直腸など）がその支持機構を失うために出現する骨盤底のヘルニアです。

骨盤臓器脱手術は従来、婦人科の先生によりNTR（native tissue repair 子宮摘除や膣縫縮などメッシュを用いない）の手術が行われていました。2006年頃より本邦において経膣メッシュ手術（TVM: transvaginal mesh）が導入され、婦人科の先生のみならず多くの泌尿器科医が骨盤臓器脱手術に関わるようになりました。その後、2011年米国食品医薬品局（FDA）からTVMに関してメッシュ関連の合併症が多いという警告が発せられ、さらに先日2019年4月FDAから経膣メッシュの禁止、メッシュの回収が発せられました。まだ日本では、TVM手術は可能ですが、先行きは不透明な状況です。

一方、経腹的にメッシュを留置する仙骨膣固定術が1960年代に開発され高い有効性が示されました。しかし開腹手術のため侵襲が大きい術式でした。近年普及している腹腔鏡を用いた仙骨膣固定術（LSC）は、良好な治療成績と低い侵襲性のため、NTRと並んで骨盤臓器脱の手術の主流となっています。LSCは通常骨盤臓器脱に加え、再発症例や妊娠希望の患者にも有効な治療方法となります。

愛媛大学でも2011年にTVM、2016年にLSCを導入し年々件数を増やしております。

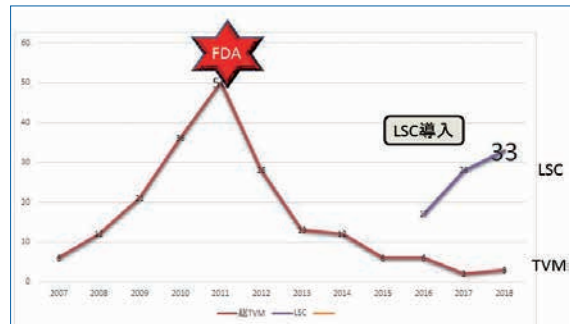
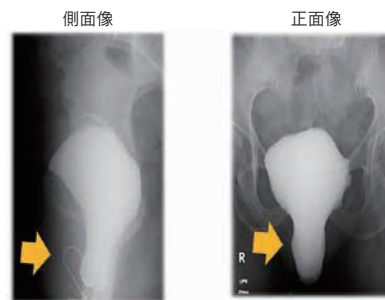


図1 愛媛大学泌尿器科における骨盤臓器脱手術の変遷

骨盤臓器脱の症例を提示します。

Stage4の骨盤臓器脱を認め両側に水腎症をきたし、腎後性腎不全を発症しておりました。術前の膀胱造影検査を示します。



膀胱が下方に降りている (矢印)

図2 Chain CG

このような症例は、TVM、NTRでは再発の可能性が高く、膣閉鎖では異物感や排尿障害が残ってしまうため、LSCを選択しました。手術時間は3時間、入院は6日でした。術前後の外観を示します。



図3

術前

術後

今回、骨盤臓器脱の手術の変遷についてご紹介させていただきました。

## 栄養管理部の紹介

主任管理栄養士 大西 邦枝

疾病や傷の回復、また健康維持には栄養状態が深く関係します。当部では栄養状態の維持や改善を目的とした栄養管理に関する業務をおこなっており、現在、給食業務を委託しているシダックスフードサービス(株)のスタッフを含め、総勢30名で業務にあたっています。



「楽しみは食べること」。私達スタッフがよく患者さんからいただく言葉です。楽しみに関す

ることを医療の一環として提案・提供することは難しい問題が生じることが多々あります。しかし、それぞれの立場で専門的な知識、技術、工夫をもってより良い医療の提供ができるよう、スタッフ一同研鑽を積みながら日々奮闘しています。

現在、糖尿病や心疾患のような疾病だけではなく、飲み込みが難しくなってきた方への食事、低栄養の悩み、がん治療時の食事など、幅広い需要にも対応しています。自身の病状に対する食事に関し、何か気になることがございましたら、是非主治医へご相談下さい。



## 北5階病棟の紹介

北5階病棟 師長補佐 石原 麻衣子

北5階病棟は、本年度4月より呼吸器・循環器の一般病棟に加えHCU機能を有した病床を併設し、急性期・慢性期・回復期・ターミナル期までの患者さんが入院しています。

一般病棟は、呼吸器・循環器疾患の急性増悪の患者さんや、慢性期にあり日常生活指導が必要な患者さんの看護を行っています。高齢患者さんも多く、転倒予防のためのベッドサイドの環境調整をリハビリ部門とも協同して行っています。また、退院後の生活を見据えて、入院時から退院に向けての調整をMSW・退院支援看護師とともにを行い、全身状態が安定すればスムーズに退院できるように支援しています。

HCUでは、循環不全・呼吸不全・意識障害や侵襲の大きな外科・整形外科の術後の患者さんの看護を行っています。

全身状態が不安定な患者さんが多いため、急変に備えて、毎月急変時のシミュレーションを

行い、専門的な知識・技術を向上させるように取り組んでいます。

これからも患者さんの安全を守り、患者さんに寄り添った看護が提供できるように、スタッフ一同協力しあい頑張っていきます。

新しくなった北5階病棟をこれからもよろしくお願ひします。



## 新規採用医師の紹介

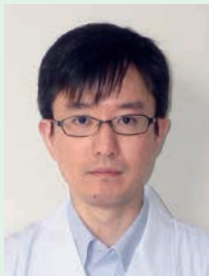


はぎ けんたろう  
**萩 健太郎**

診療科：整形外科  
経験年数：3年

**コメント：**

出身は福岡県です。ご縁があってこの4月から愛媛労災病院で勤務させていただくことになりました。急性期から慢性期まで様々な運動器疾患を診させていただきます。新居浜地域の皆さんの健康な生活に貢献できるように邁進して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



なんの たくま  
**南野 巧真**

診療科：循環器内科  
経験年数（免許取得後）：9年目  
専門分野：心不全、冠動脈カテ  
テル検査・治療  
趣味：お酒、カラオケ

**コメント：**

患者さんのADL・QOLを改善させる治療に興味を持ち、循環器領域で仕事をしています。地域の医療に貢献すべく頑張りますのでよろしくお願いいたします。



ひご むつみ  
**樋口 睦美**

診療科：皮膚科  
経験年数（免許取得後）：15年  
専門分野：皮膚科全般  
趣味：登山、旅行

**コメント：**

昨年、福岡から越してきました。家では幼い3人息子と格闘する毎日です。皮膚は目に見える部位なので、小さなことでも気になる事があれば気軽にご来院ください。



すみだ ともき  
**住田 知樹**

診療科：歯科口腔外科  
経験年数：25年  
専門分野：口腔外科、インプラ  
ント  
趣味：海外旅行

**コメント：**

口腔粘膜疾患やインプラントなど、口腔外科疾患を専門にしております。スムーズな病診連携を目指して地域の皆様に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。